恩師より　「東住吉高校の思い出」　青谷 正麿 先生

【1965(昭和 40) 年～ 1986(昭和 61) 年　国語】

何か書くようにとのお言葉をいただきましたが、九十七歳という高齢、耄碌(もうろく)も遥かに超えて居りますので、お目障りとは存じますが、思い出を少し書かせていただきます。

創立十周年を祝い若々しい空気に満ち、7 期生が三年になった春からご厄介になりました。校舎・設備も一応整い、活気に満ちていましたが、周囲は水田ばかりで水捌けが悪く、一雨降れば泥水が溜り、表門からは出て行けないような日もあった頃のことです。

少し慣れた頃から斎藤先生のもとで、全く経験のない柔道部の顧問をさせていただくことになり、以来 23 年、ずっと柔道部には親しませていただきました。

田代先生にご指導いただき進路指導部も転出するまで担当しました。

当時は就職される方も多く、商社や銀行を巡っては、種々(くさぐさ)と依頼したり、されたり、とにかく充実感のある日々でした。

古い会員の皆さんもそうだと思いますが、霧ヶ峰は忘れることは出来ません。観光バスを連ねる前は、天王寺駅から関西線経由の蒸気列車で上諏訪へ乗り込んだりすることもありました。時間調整の為、亀山で五十分、木曽福島では三時間も停車するのです。

八時頃にやっと上諏訪着。車山の展望、一面のニッコウキスゲ、今でも脳裡に残っておられる方が多いと思います。

教室での学習は上手に運営できなかったと思い、その補いの意味で、よくプリントをつくりました。印刷係であった吉川さんにとっては、ご迷惑なことだと思っています。

五十八歳で転出し、以後、大阪学院・東海大仰星・東大阪・柏原と移りましたが七十歳まで勤めました。

二人の息子とは離れて住んで居りましたので、病気入院を機に家に近い養老施設に入れていただき、毎日金剛山を眺めて機嫌よく暮らしています。

最近の青谷先生

現役の先生より「門出に会って思うこと」　清水 洋一 先生 【英語】

52 期生からお世話になっている清水といいます。

東住吉高校に初出勤した時、正門の表札に「今日からよろしくお願いします。」と言ったことを思い出します。その時、下のほうが長い「吉」なんだと知りました。その日から毎日、正門を通っての出勤となりましたが、半年後、自転車通勤に切り替えてから北門を通るようになりました。その後、朝の自転車当番で西南門があることもわかりました。ヒガスミには計５つの門があります。あと２つは言わずと知れた「華朝門」「月夕門」です。その正門の横には「たくましい自主創造の精神」と記された初代校長先生による碑文があります。私たちの学年では、教室にも「自主・独立・創造」の標語を掲げていました。また、その実現に向けて当時の三上校長先生は「二兎をとれ」を方針としました。

私は卒業式の日は校章（「人」あらわす形に H を乗せてある）を掲げてある 2 階の渡り廊下から卒業生が正門を出ていくのを必ず見ることにしていました。その後ろ姿にヒガスミ 3 年間が見えるからです。体も一回り大きくなった生徒たちの 3 年間を思い出します。自分たちで作り上げた体育祭、文化祭。海外への修学旅行。日々のクラブ活動。もちろん日々の学習活動。進路が決まって喜ぶ姿、反面、進路がかなわなくて落ち込む姿などなど。それらを通して中学生からたくましい高校生へと変わっていきました。３年後、正門を出ていく時は次に進む場所への入り口にもなります。正門を出て右に行く者、左に行く者、そしてまた、真っすぐにも道があります。その背中に「若いっていいな。」といつも呟いています。君たちに「幸あれ」と祈りながら。

たくさんの「やる気」をこの在職中にヒガスミから学びました。私もまたいつの日か、この「正門」から出ていきます。後ろ姿を「ヒガスミ」に見てもらえたら嬉しい限りです。